

はじめに

厚生労働省におけるひきこもり対策は、これまで精神保健福祉分野、児童福祉分野等において実施しており、全国の精神保健福祉センター、保健所、児童相談所等にて、ひきこもりを含む相談等の取り組みが行われてきました。当精神保健福祉センターにおいても、思春期対策事業として不登校等の相談に対応してきたところです。

その後、平成21年度から厚生労働省の「ひきこもり対策推進事業」により、「ひきこもり地域支援センター」の各都道府県・指定都市への設置が推進されました。平成30年4月時点において、全国に67の自治体でひきこもり地域支援センターが75か所設置されているところです。また、平成25年度からは、ひきこもり状態にある本人やその家族に対するきめ細かく継続的な相談支援や早期の把握を目的として「ひきこもりサポーター養成研修事業」、「ひきこもりサポーター派遣事業」が厚生労働省の新規事業となりました。また、平成27年4月に生活困窮者自立支援法が施行され、生活困窮者自立相談支援事業体系の中にひきこもり対策推進事業が任意事業として位置づけられました。

福岡県においては、平成22年6月にひきこもり地域支援センターが当精神保健福祉センター内に設置され、9年経過しました。平成30年度相談延べ件数は1533件で、本人・家族からの相談に加えて、関係機関からの相談件数も年々増えてきております。

今回、平成30年度のひきこもり対策推進事業の報告書を作成しましたので、ひきこもりに係る支援において参考にさせていただきたいと存じます。

最後に、日頃から当センターにおけるひきこもり対策の推進にご協力いただき、関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

福岡県精神保健福祉センター
楯林 英晴

各事業の概要

1 ひきこもり相談・支援事業

(1) 目的

保健福祉（環境）事務所等と協力のもと、ひきこもりの相談窓口としての役割を担う。

(2) 事業内容

ア 電話相談事業

月～金曜日の9時から17時15分（祝日及び年末年始を除く）実施。

イ 来所相談事業

月～金曜日の9時30分から16時20分まで要予約とし、概ね1時間程度の面接実施。

ウ 訪問（アウトリーチ）支援

事例在住管轄の保健福祉（環境）事務所と訪問支援をする他、関係機関への同行支援も実施。

2 人材育成事業

(1) ひきこもり家族教室の開催

ア 目的

(ア) 家族がひきこもりに対する正しい知識を学ぶ場の提供。

(イ) 学習や意見交換を通し、家族の不安や孤立感の軽減を図る。

(ウ) 家族が本人に対して主体的な関与ができるように支援する。

イ 対象者

(ア) 社会的ひきこもりの方（概ね18歳以上）の家族

(イ) 県内に居住の者

ウ 開催日程

全3回を1クールとし、2クール実施する。家族教室の中で研修会を1回実施した。

第1木曜日（1月は第2木曜日） 14:00～16:00

(2) ひきこもり支援関係者研修会の開催

ひきこもり支援関係者（保健福祉（環境）事務所職員、市町村職員、医療関係者、支援ボランティア、福祉・学校関係者、教育機関関係者等）の資質向上を図ることを目的に実施。

3 関係機関連携強化事業

(1) ひきこもり対策連絡調整会議の開催

ひきこもりに関する機関（労働・保健・福祉・医療・教育等）の連携を強化し、支援体制の充実を図ることを目的に実施。

(2) 保健福祉（環境）事務所とのひきこもり対策連絡会議の開催

県内9か所の保健福祉（環境）事務所及び久留米市保健所、大牟田市保健所を3ブロックに分け、ブロック毎に開催し、事業内容や事例等の情報・意見交換を実施。

(3) ひきこもり地域支援センター実務者連絡会議の開催

県内の成人期を対象としたひきこもり地域支援センターの実務者による各センターの取り組み状況及び課題等に関する意見及び情報交換を実施。

- (4) ひきこもり支援者等ネットワーク会議の開催
地域の医療・福祉・労働・教育等の各関係機関の取り組み状況等に関する情報交換を実施。

4 当事者・家族支援事業

(1) フリースペース（ねすと♪たまゆら）

ア 目的

ひきこもり状態にある本人を対象に家庭以外に安心して過ごせる場所を確保することで、同世代の仲間と出会い、人との関わりや様々な体験の場を提供する。

イ 対象者

県内居住の社会的ひきこもり状態にある本人（概ね18歳以上）

ウ 開催日程

毎月第2・4水曜日 14:00～16:00

(2) 家族サロン

ア 目的

家族同士の語らいを通して、家族の癒しや情報交換の場として活性化することによって、自助機能を高めていく。

イ 対象者

県内居住の社会的ひきこもり状態にある本人（概ね18歳以上）の家族

ウ 開催日程

毎月第3金曜日（14:00～16:00）実施する。

初回の参加者の方には個人面談を実施している。

5 情報発信事業

(1) 目的

地域のひきこもり支援に必要な情報を提供するとともに、相談窓口の周知徹底を図る。

(2) 事業内容

ア 福岡県ひきこもり対策推進事業業務報告書の作成・配布

イ リーフレットの作成・配布

ウ 福岡県ひきこもり支援等関係団体ガイドブックのメンテナンス 改訂・配布

エ 各事業のチラシ作成・配布

オ ホームページ更新

（ア）各種事業の案内

（イ）ひきこもり対策連絡調整会議資料 掲載

（ウ）ひきこもり支援者研修会資料 掲載

（エ）福岡県ひきこもり支援等関係団体ガイドブックのメンテナンス 掲載

（オ）ひきこもり相談事業マニュアル～ひきこもりの方を支えるために～ 掲載

（カ）県内ひきこもり地域支援センター同士のホームページの相互リンク 実施

6 平成30年度ひきこもり対策推進事業方針

(1) ひきこもり相談事業

1) 相談支援

ア 面接（来所）相談及び訪問支援・同行支援（アウトリーチ支援）の拡充

- イ 相談業務マニュアルのメンテナンス
- 2) 相談窓口の広報
- ア 広報媒体（県・市町村）の活用による広報の拡充
- イ 研修会や会議等の活用による広報活動の拡充
- ウ ホームページの随時メンテナンス

(2) 人材育成事業

- 1) ひきこもり家族の学習の場（家族教室等）の拡充
全3回を1クールとし、2クール実施。家族対象の研修会も実施した。募集に関しては、開催前に各関係機関に案内すると共にHP や相談にて随時案内した。
第1または第2木曜日 14:00~16:00
- 2) ひきこもり支援関係者研修会の実施
- 3) 事例検討会等の実施

(3) 関係機関連携強化事業

- 1) ひきこもり対策連絡調整会議の充実
- 2) 保健福祉環境事務所及び保健所設置市との定期的連携会議の充実
ブロック毎（福岡、筑豊、筑後）年1回ずつ開催
- 3) ひきこもり地域支援センター実務者連絡会議の充実
県内センター間の情報交換及び連携強化のため開催
視察を兼ねて開催場所は持ち回り
- 4) ひきこもり支援関係者等ネットワーク会議
県域のひきこもり支援関係者の実務レベルの連携体制の構築を目的に開催
- 5) ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会への参加

(4) 情報発信事業

- 1) ホームページ等掲載情報のメンテナンスを随時実施
- 2) 福岡県ひきこもり支援者等関係団体ガイドブックの更新、作成等
- 3) 定期的及び随時のマスコミ等への広報活動

(5) ひきこもり本人・家族への支援事業

- 1) フリースペース事業の拡充 毎月第2・4水曜日 14:00~16:00
当事者支援のため、居場所の確保や次の支援へのステップアップを図る。
- 2) 家族サロンの拡充 毎月第3金曜日 14:00~16:00
家族支援のため、家族同士が悩みを共有するとともに、問題解決の糸口を見つける機会を得るようサポートする。

各事業実績

1 ひきこもり相談・支援事業

(1) 相談件数(図表1、2、3)

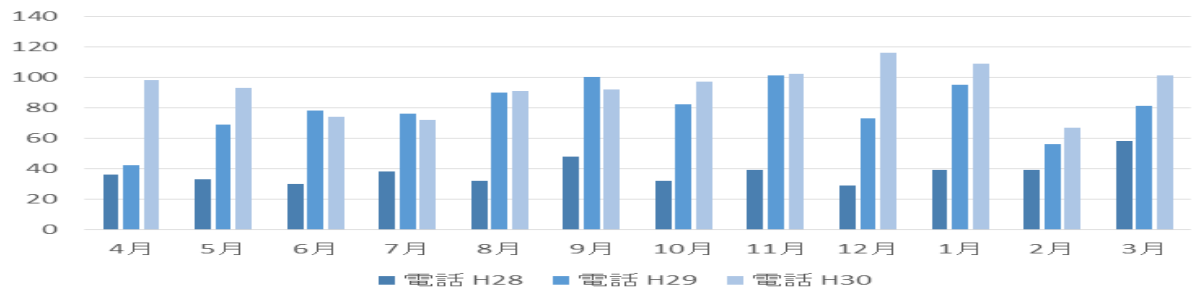
平成30年度の相談受理延べ件数は、電話相談1112件、来所相談374件、訪問47件となっており、電話相談の月平均が約93件、来所相談が約31件で推移している。月合計平均件数は約106件となっている。継続支援に当たっては予め手続きや基準を作成し、方向性を明確にした上で拡充を図るとともに、関係機関とはケースや会議を通して、情報共有を行い、連携体制の構築に努めた。月平均は128件程度で、合計延べ件数は1533件だった。

図表1

	電話				来所				訪問・同行		
	H28	H29	H30		H28	H29	H30		H28	H29	H30
4月	36	42	98	4月	12	15	26	4月	0	0	0
5月	33	69	93	5月	9	24	25	5月	0	0	5
6月	30	78	74	6月	8	33	25	6月	2	0	1
7月	38	76	72	7月	12	32	25	7月	0	2	1
8月	32	90	91	8月	10	35	29	8月	4	0	1
9月	48	100	92	9月	8	28	35	9月	0	1	4
10月	32	82	97	10月	6	24	37	10月	0	3	6
11月	39	101	102	11月	10	23	37	11月	0	5	4
12月	29	73	116	12月	10	30	35	12月	2	3	6
1月	39	95	109	1月	8	20	33	1月	8	3	5
2月	39	56	67	2月	4	18	33	2月	2	1	6
3月	58	81	101	3月	7	27	34	3月	3	3	8
合計	453	943	1112	合計	104	309	374	合計	21	21	47
月平均	37.8	78.5	92.7	平均	8.7	25.8	31.2	平均	1.8	1.8	3.9

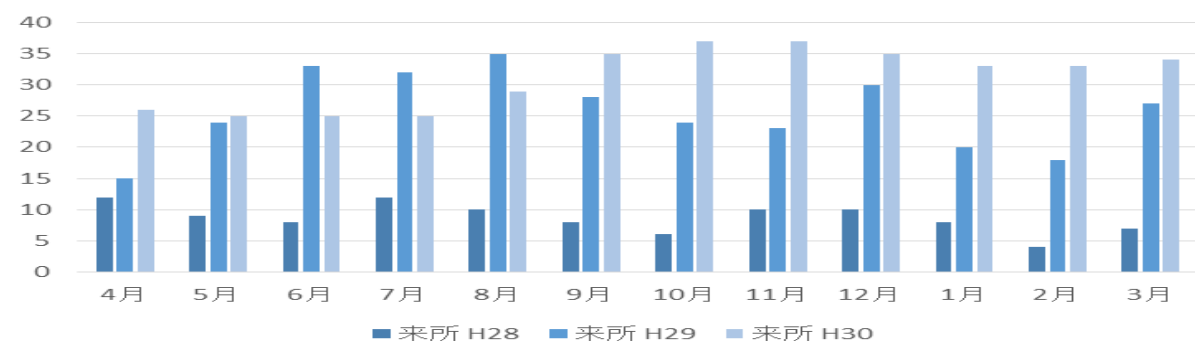
月別相談集計(電話)

図表2



月別相談集計(来所)

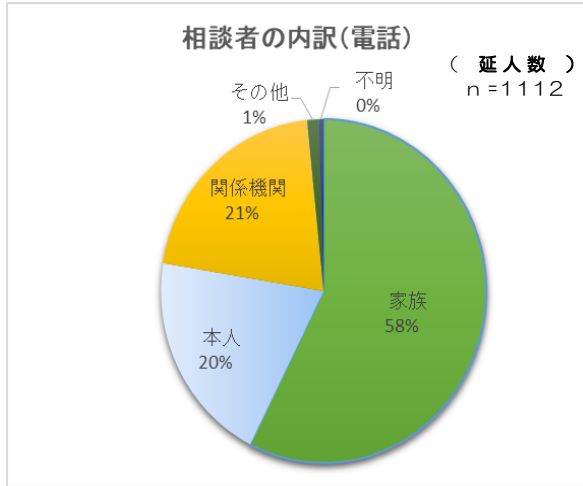
図表3



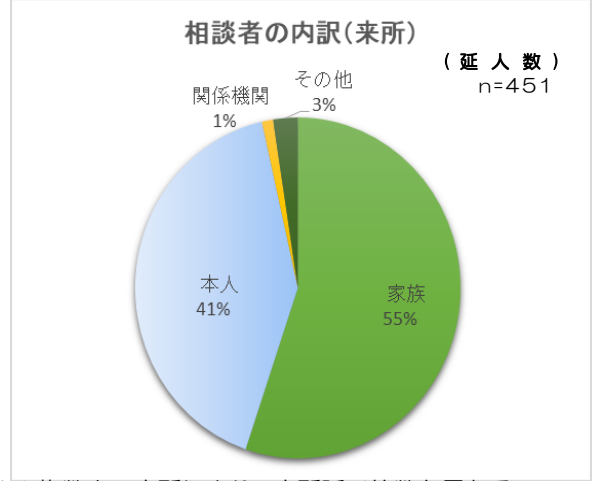
(2) 相談者の内訳 (図表 4、5)

昨年度に比べ、電話は家族が 500 人から 639 人、本人が 213 人から 224 人と増加しており、来所は家族が 245 人から 249 人、本人が 83 人から 186 人と増加している。また、電話及び来所相談ともに家族が過半数を超え、関係機関の相談も増加傾向である。

図表 4



図表 5 ※1



※1 複数人の来所により、来所延べ件数と異なる。

(3) 本人の性別 (図表 6)

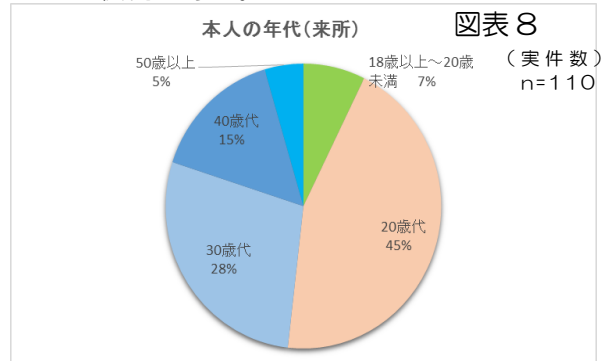
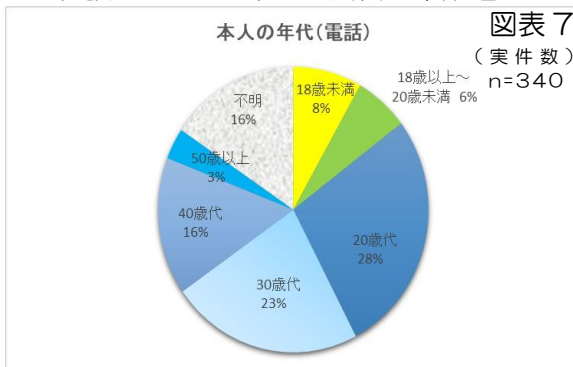
電話相談では男性が 67.9%、来所相談では 77.2%と、いずれにおいてもひきこもりの本人は男性が多い状況である。

図表 6(実件数)

	男性	女性	不明	合計
電話	231 件(67.9%)	87 件(25.6%)	22 件(6.5%)	340 件
来所	85 件(77.2%)	25 件(22.7%)	0 件	110 件
訪問	14 件(70.0%)	6 件(30.0%)	0 件	20 件

(4) 本人の年代 (図表 7、8)

電話相談では、20 歳代 94 件、30 歳代 78 件、40 歳代 53 件の順に多く、来所相談では、20 歳代 49 件、30 歳代 31 件、40 歳代 17 件の順となっており、来所相談においては、20 歳代が半数近くを占めている状況である。



2 人材育成事業

(1) ひきこもり家族教室

ア 日程・プログラム内容

		開催日程	内 容
1 ク ール	第1回	平成30年6月7日	テーマ：ひきこもりに伴う症状と対応について学ぶ ・講話「ひきこもりに伴う症状とその対応」 講師：福岡県精神保健福祉センター医師 桑野真澄 ・懇談会
	第2回	平成30年7月12日	テーマ：家族の支援と役割について学ぶ ・講話「家族の支援と役割」 講師：スタッフ ・懇談会
	第3回	平成30年8月9日	テーマ：家族から本人への関わりを学ぶ ・講話「家族からのメッセージ」 講師：ひきこもり家族 ・懇談会
	研修会	平成30年10月4日	テーマ：家族にできる対応を学ぶ ・講話「ひきこもりへの対応～家族にできること～」 講師：心理職 緒川秀俊 ・懇談会
2 ク ール	第1回	平成30年11月1日	テーマ：ひきこもりに伴う症状と対応について学ぶ ・講話「ひきこもりに伴う症状とその対応」 講師：福岡県精神保健福祉センター医師 桑野真澄 ・懇談会
	第2回	平成30年12月6日	テーマ：家族の支援と役割について学ぶ ・講話「家族の支援と役割」 講師：スタッフ ・懇談会
	第3回	平成31年1月10日	テーマ：地域の社会資源 ・講話「社会資源について」 講師：福岡県就労支援準備事業相談支援員 高松健一 ・懇談会

イ 参加状況

- ・全3回を1クールとし、2クール、さらに研修会を実施した。また、募集に関しては開催前に各関係機関に案内すると共にHPや相談にて随時、案内した。
- ・平成30年度全体の参加は43家族(うちH29年からの継続参加は12家族)、参加者実数51人、延べ参加者数99人、平均参加人数は約14.1人であった。

ウ 参加者の背景

参加者とひきこもりの本人の状態は、次のとおりである。

家族教室参加者

参加経路

ひきこもり本人

本人との関係	人数	年代	人数	経路	人数	性別	人数	年代	人数	ひきこもり期間	人数
母親	33	20代	1	当センター	4	男	29	10代	2	1年未満	3
父親	13	30代	0	ネット	9	女	5	20代	15	1年以上 ～3年未満	10
同胞	5	40代	3	チラシ	5	不明	7	30代	10	3年以上 ～5年未満	3
合計	51	50代	17	知人	4	合計	41	40代	6	5年以上 ～10年未満	6
		60代以上	20	他機関	19			50代	1	10年以上	12
		不明	10	不明	10			不明	7	不明	7
		合計	51	合計	51			合計	41	合計	41

エ アンケート結果

1) 各回終了後のアンケート結果

テーマ	参加状況		内容					感想					備考		
	家族	市町村・その他	よく分かった	分かった	ある程度分かった	あまり分からなかった	分からなかった	記載なし	大変よかった	よかった	ふつう	あまりよくなかった		よくなかった	記載なし
第1回 ひきこもりに伴う 症状と対応	13名		4	4	2	0	0	3							「よく分かった」「分かった」「ある程度分かった」の項目で占められた。ほぼ理解されたと思われる。
第2回 家族の支援と役割	11名		4	3	2	0	0	2							「よく分かった」「分かった」「ある程度分かった」の項目で占められた。ほぼ理解されたと思われる。
第3回 家族からの メッセージ	18名		3	7	5	0	0	3	6	9	1	0	0	2	内容は「よく分かった」「分かった」が多く、感想は「よかった」が最も多かった。好評だったと思われる。
研修会 ひきこもりへの 対応	30名	5名	4	12	4	4	1	10	3	16	2	3	0	11	内容は「よく分かった」「分かった」が16名、感想は「よかった」が16名と多かった。演習も好評だった。
第1回 ひきこもりに伴う 症状と対応	9名	1名	3	1	0	0	0	5	3	1	0	0	0	5	内容は「よく分かった」が多く、感想も「大変よかった」が多かった、自己紹介用の下書きをアンケートと混同されて回収率が悪かった。
第2回 家族の支援と役割	7名	1名	4	1	1	1	0	0	3	3	1	0	0	0	内容は「よく分かった」が多く、感想は、「大変よかった」と「よかった」が多かった。理解が進んだと思われる。
第3回 社会資源について	11名	1名	1	4	3	0	0	3	2	5	1	0	0	3	内容、感想とも「分かった」「よかった」の項目で占められた。好評な研修会だったと思われる。

オ まとめ

	実施回数	参加者総数	参加者実人数	1回あたり参加者
H29年度	1クール(8回)	142名	37人(27家族)	17.8人
H30年度	2クール(6回) 研修会	99名	51人(43家族)	14.1人

今年度は、家族教室の実施回数を減らし、1回研修会を実施した。参加者実人数は増加しているが、参加者総数が減少している。今後も家族教室への参加と来所面談をセットで促していき、継続相談につなげたい。

参加者の声は、「自分だけ苦しんでいるのではない」「他の人も同じ苦しみがあることが分かって気が楽になった」との声が多かった。

1クール目第3回「家族からのメッセージ」では、当センターで相談を継続した当事者家族の話を実施した。第2回「家族の支援と役割」では、DVDで当事者家族の体験を視聴し、これらの回は特に好評だった。多くの参加者が共感できて、「今後わが子にどのように対応したらいいのか、おぼろげながら見通しが持てた」という声があった。

ひきこもりの子どもを持つ親の苦悩は計り知れない。しかし、家族教室に参加することによって苦しい胸のうちが救われたり、見通しが持てるようになってきている。今後も家族のニーズに応えられるように家族教室を運営していきたい。

(2) ひきこもり支援関係者研修会

ア 日時

平成30年7月5日(木) 14:00~16:00

イ 会場

福岡県精神保健福祉センター2階 研修室

ウ プログラム内容

時 間	内 容
14:00~14:10	開会のあいさつ 福岡県精神保健福祉センター 所長 楯林 英晴
14:10~15:40	講 演 「ひきこもる若者たちの心と症状を理解する ～精神科医療の活用の仕方～」 講 師 医療法人富田醫院 院長 富田 伸 先生
15:50~	質疑応答・意見交換
16:00	閉会

エ 参加者状況

参加者数は102名であった。研修後のアンケート結果(回答者97名、回収率95.1%)より、所属別では、行政機関45人(47%)と最も多く、次に、相談支援事業所12人(12%)、自立相談支援機関9人(9%)となっている。職種別では、相談・指導員が最も多く、次に保健師、社会福祉士の順となっている。

参加者の所属

所属	人数
行政機関	45
相談支援事業所	12
自立相談支援機関	9
労働支援関係機関	5
社会福祉協議会	3
教育関連機関	2
医療関係	1
その他	18
回答なし	2
合計	97

参加者の種別

職種	人数
相談・指導員	36
保健師	24
社会福祉士	10
精神保健福祉士	8
労働支援関係者	7
事務職	6
心理職	5
医療関係者	2
教育関係者	1
その他	8
回答なし	2
合計	109

※複数回答あり。

オ アンケート結果

回答	人数
大変役に立った	58
役に立った	37
どちらでもない	2
あまり役に立たなかった	0
役に立たなかった	0
回答なし	0
合計	97

<感想>

- ・「ひきこもりとは自己治療」が印象的だった。
- ・支援者と依存関係にならないよう気をつけながら、特性も理解して関わりたい。
- ・「発達障がいは発達する」に同意見。
- ・支援者のケアも重要と感じた。
- ・「ダメダメ」⇒「よしよし」得意な事を延ばす。周りの意識を変える。
- ・生き辛さを知るは、重要だと思った。

(3) ひきこもりサポーター養成研修

ア 日時

平成30年10月12日(金) 10:00~16:00

イ 会場

福岡県精神保健福祉センター(集団療法室)

ウ プログラム内容

時間	内容
10:00	開会のあいさつ 福岡県精神保健福祉センター 所長 楯林 英晴
10:10~	事業説明 ①「ひきこもりサポーターに期待する役割について」 こころの健康づくり推進室 班長 眞子 美和 ②「ひきこもりサポーターの養成研修事業および派遣事業について」 こころの健康づくり推進室 安在 雄治

10:35～	講義 「ひきこもりに関する理解」 福岡県精神保健福祉センター 所長 楯林 英晴
11:15～	講義 「ひきこもり対策の現状と取り組みについて」 福岡県ひきこもり支援センター 技術主査 田中 有利子
(12:00～13:00)	(昼休み)
13:00～	講義 「ひきこもりの方への接し方について」 講師：心理職 緒川 秀俊 氏
14:10～	グループワーク アドバイザー：緒川 秀俊 氏
15:40	意見交換
16:00	閉会

エ 参加状況

参加人数 8名（ひきこもり元当事者5名、家族2名、支援者1名）

オ 内容のまとめ

ひきこもりからの回復者及びその家族や、ひきこもり支援に関心がある方を対象に、ひきこもりに関する基本的な知識（ひきこもりの概要、支援方法、支援上の注意点等）を習得させることを目的に、福岡県の主催で、こころの健康づくり推進室と当センターが実施した。ひきこもりの方への接し方を、ロールプレイを交えて学んでいった。ひきこもり本人が、自宅でサポーターから気持ちに寄り添った支援を受けることは貴重な体験になると考えられる。今回の研修を受講者等から、こころの健康づくり推進室が管理しているひきこもりサポーター養成名簿に5名が登録された。

3 関係機関連携強化事業

(1) ひきこもり対策連絡調整会議の開催

開催状況

ア 日時

平成31年2月14日（木） 15:00～16:30

イ 場所

福岡県精神保健福祉センター 2階 研修室

ウ 内容

- ・ひきこもり地域支援センターの取り組み状況について（情報交換）
- ・地域の関係機関と連携し、中高年のひきこもり本人と関わった事例（報告）
- ・意見交換
- ・福岡県若者自立相談窓口の紹介 等

<まとめ>

各ひきこもり地域支援センターの取り組みについて報告し、現状や課題の共有を行った。今回は、中高年のひきこもり事例の報告や地域での取り組み、それに関する意見交換、福岡県内に新しく出来た窓口の紹介等を行い、各機関で出来ることについて活発に意見交換が出来た。

(2) 保健福祉（環境）事務所等のひきこもり対策連絡会議の開催

ア 開催日程

ブロック名	日程	対象事務所等	参加人数	会場
筑後	7月18日	北筑後、南筑後、久留米市、大牟田市	7	久留米総合庁舎（第1・第2会議室）
筑豊	7月19日	嘉穂・鞍手、田川京築	11	田川保健福祉事務所(田川総合庁舎第3会議室)
福岡	7月27日	粕屋、筑紫宗像・遠賀、糸島	10	精神保健福祉センター（集団療法室）

イ 各保健福祉（環境）事務所の取組状況

		取り組み状況	課題
筑後ブロック	北筑後	精神保健福祉相談	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族への対応の難しさ。 ・アウトリーチのマンパワーの問題等
	南筑後	精神保健福祉相談	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの相談の、継続支援について等
	久留米市	精神保健福祉相談	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの相談が多く、本人に会えない。 ・医療が必要なケースが多い。
	大牟田市	特に行っていない	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は多くないが増加傾向。 ・総合相談の中に本業務が位置付けられている。
福岡ブロック	筑紫	精神保健福祉相談	<ul style="list-style-type: none"> ・医療が必要なケースもあり。 ・家族からの話だけで本人の様子が分からない等。
	粕屋	精神保健福祉相談	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の周知 ・関係機関との連携等
	糸島	精神保健福祉相談	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在事例の掘り起こし。 ・窓口相談、関係機関の周知、連携
	宗像・遠賀	精神保健福祉相談	<ul style="list-style-type: none"> ・定例相談の中で個別支援が中心
筑豊ブロック	嘉穂・鞍手	精神保健福祉相談 ひきこもり相談会	<ul style="list-style-type: none"> ・相談会後の継続支援を行っている。 ・精神疾患の見極めが大切。
	田川	精神保健福祉相談	<ul style="list-style-type: none"> ・専門相談機関が少ない。 ・自助グループ、家族会が少ない。
	京築	精神保健福祉相談	<ul style="list-style-type: none"> ・両親が高齢化しているケースの増加。 ・支援が長期化し、継続できない。

- (3) ひきこもり地域支援センター実務者連絡会の開催
 県内の成人期を対象としたひきこもり地域支援センターの実務者による各センターの取組状況及び課題等に関する意見及び情報交換を実施した。

- ア 日時
 平成30年6月8日(金) 14:00~16:30
- イ 場所
 ウェル戸畑7階 連絡会議室
- ウ 内容
 ・各センターにおける取り組み状況及び課題について
 ・各センターの相談支援の取り組みについて

- (4) ひきこもり支援者等ネットワーク会議
 ひきこもりの支援と連携についての説明を実施した。

- ア 日時
 平成30年12月20日(木) 14:00~16:30
- イ 場所
 福岡県精神保健福祉センター 研修室
- ウ 内容
 ・「ひきこもり本人とその家族の関係を通して見えるもの
 ~ひきこもり本人のゴールとは~」
 講師：福岡県立大学看護学部・大学院看護学研究科准教授 四戸智昭先生
- ・事例報告
 「家族の相談のみで5年が経過している事例~次の一歩が出ない母への対応~」
 報告者：当センターコーディネーター 山下弥恵
- ・意見交換(グループワーク)
 「ひきこもり支援における各関係機関の取り組みや連携について」

<まとめ>

福岡県立大学の四戸先生から、社会を覆っている暗黙のルールである生産性の向上や多様性等の生きづらさの視点から、ひきこもりについて説明をしていただき、理解を深めた。

その人らしさを生かし、良好な人間関係を持つことが、ひきこもり本人のゴールとなっていくだろう、とのことだった。

後半は、地区毎のグループで、事例検討を行った。地域の様々な所属の多職種が顔を合わせ、各所属での出来ることを出し合い活発に協議していた。今後も関係機関とのさらなる連携、啓発を図っていきたい。

4 当事者・家族支援事業

- (1) フリースペース(ねすと♪たまゆら)

ア 開催日程 毎月第2・4水曜日 14:00~16:00

イ 参加状況

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
男性	3	2	2	1	2	2	2	3	2	2	3	2	2	56
女性	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	2	1	1	29
合計	3	3	3	2	3	2	3	3	4	3	4	3	4	85

ウ まとめ

- ・昨年度延べ45名に対し、今年度は延べ85名が参加した。
- ・継続しての参加も増え、そのうち2名が卒業(就職・進学)、4名がサポステに繋がった。



(2) 家族サロン

ア 開催日程 毎月第3金曜日 14:00~16:00

イ 参加状況

本年度は通常集団療法室で行い、10月・1月・2月・3月に和室で実施した。

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
参加家族	4	3	1	3	1	3	3	3	2	1	4	1	29
人数	4	3	1	3	1	3	3	3	2	1	4	1	29

ウ まとめ

- ・昨年度に比べ、参加家族が減少した。
- ・参加者減少の理由としては、本人が動き始めた、参加家族（主に母親）が働き始めたこと等が考えられた。
- ・参加者の声「みんな悩みは同じ」「家族が考えることは一緒。話を聞いてよかった」



5 情報発信事業

- (1) 福岡県ひきこもり対策推進事業業務報告書の作成・配布
- (2) 話してみようと思ったら～ひとりで悩まないで～リーフレット配布
- (3) 各事業のチラシ作成・配布
- (4) ホームページの更新
 - ・各種事業の案内
 - ・ひきこもりの方を支えるために（冊子）掲載
 - ・福岡県ひきこもり支援等関係団体ガイドブック掲載
 - ・ひきこもり対策連絡調整会議資料 掲載
 - ・ひきこもり支援関係者研修会資料 掲載
 - ・福岡県ひきこもり対策推進事業業務報告書
 - ・県内ひきこもり地域支援センター同士のホームページの相互リンク

